No. 188

ティーブレイク

Tea Break

弁理士会役員会秘話

会員　正林　真之

太ったことがある方なら直ぐに分かると思うのであるが，デブ（注：自分自身もデブなので，悪意はありません）にとって体を動かすというのは，とても億劫なものなのである。運動するなど，とんでもない。なので，あるダイエット法を試してみると，直ぐに「これは健康に悪そうだから…」と理由をくっつけては，やめてしまう。けれども，そもそもデブであることそれ自体が不健康なのであるから，どんな方法でもやってみるべきなのである。たとえ不健康そうに見える方法であったとしても，そのままデブでいることのほうが，よほど不健康だからである。

とはいえ，デブになったことがない方にとっては，これは本当に別世界の話なのであるが，体重が80kgを超えると，実は何かと制約が多くなるのである。体重80kgなんて，通常の方にとっては途方もない国の話であるように思えるのであるが，実際になってみると，何のことはない。以前に確か「イケナカ　ゲンタ，80キロ」みたいな番組があったと思うが，当時の痩せていた自分にとってみれば，「そんなデブなど，どこに居るんじゃ？！」という感じであったのであるが，実際に自分がなってみると，何のことはない。中島敦の山月記の「虎になった主人公」の話ではないが，既に「なんで以前は，痩せていたんだろう？！」とまで思う次第である。

話を戻すと，体重が80kgを超えると，実は何かと制約が多くなる。例えば，折り畳み式自転車。あれは構造的にそんなに強くはなく，たいていの場合，制限体重は80kgである。なので，私のような者が暫く乗っていると，もう元のように折りたたむことができなくなってしまう。

キャンプなどに持って行く小さなパイプ椅子なんかも同様で，重量級の人が使っていると，すぐに壊れてしまう。

けれども，何気なく使っていて，実はあまり知られていないのが，事務用の椅子である。あれも大抵は，80kgが制限体重なのである。特に通信販売で購入したものなどは，殆どがそうなっている。なので，例えば，特許事務所を立ち上げた初期のときなどには，お金が無いので，普通の事務機器屋さんではなく，通販で机と椅子のセットを安く購入したりするのであるが，その椅子の制限体重が80kgである。なので，それを知らずに使い続けていたりすると，ある時に急に背もたれが壊れてしまったり，脚の部分にガタが来てしまったりするのである。

ところで，週1で開かれる弁理士会の役員会では，弁理士会の会務の運営に関する決議事項を中心に審理ないしは決議がなされるのであるが，その際に何かと話題に出てくるのが，弁理士会の会費の話である。もちろん，今の会費が高いとか安いとかの話もあるが，年に1度は必ず話題に上るのが，たいていは，全会員に均一な会費はどうかという話である。そう，老若男女を問わず，そして登録年数の長短を問わず，全ての会員に一律な金額の士業というのは，珍しいのである。

今更ここで言うまでも無く，弁護士というのは，地域によっても，登録年数によっても，会費の金額は異なる。海外を見ても，例えばお隣の韓国などは，弁理士は，出願の取扱件数によって会費の金額が異なったりするのである。

ただ，その年には，会費のことが話題に上ったきっかけというのが，とある支部（今では“地域会”）が新た

に購入する備品の値段についてであった。そこで使われる椅子の値段が，想定していたよりも高かったのである。

しかしながら，その理由を調べさせたところ，どうも「制限体重がそれなりに大きいものについては高くなる」ということであり，その際に，笑い話のような，それでいて結構真剣味のある話の一つとして，「健康体質の人は保険料が安くなるという話もあるくらいだから，どうかここはひとつ，体重に応じて弁理士会費を異なるようにしたらどうか」という話が出た。そう，デブのために高い椅子を購入しなければならないわけで，デブのためにお金がかかっているわけなのだから，デブそれ自体がその分を負担すべきだという，もっともな意見である。

また，高い会費を払いたくないがために痩せる努力をしたほうが良いというのは，先の「健康体質の人には安くなる保険」と同じ思想で，まったく文句のつけようがない。そう，冒頭に書かれているように，デブでいることそれ自体が不健康なのだ。なので，それを解消するような政策が悪いわけがない。

しかしながら，あいにく，その年の役員会は，どう見ても 80kg を超える方がそれなりの数を占めていた。そんな事情もあり，その話が出た途端に，その面々がお互いに顔を見合わせることになった。そして大きな笑い声が役員会全体に起こったのであるが，やせている年長弁理士のその目はあたかも，「まぁ，いいじゃないか。同じ弁理士なんだし…」と語りかけているような，そんな感じでもあった。

ところで，実際に役員になった方なら直ぐに分かると思うが，各会派から代表して構成された弁理士会の役員会というのは，それなりにギスギスしているもので，こういった和やかな雰囲気になるのは，結構な時間がかかる。なのでその時も，「貴殿が肥っている分を他の誰かが負担しているのだ」というような相手を責めるような議論がなされるのかとも思ったのであるが，そういった話は一切出なかった。そして，前述のように，あたかも人生の先輩が後輩に温かく諭しているかのようなそんな雰囲気の中で，大きな笑い声が役員会全体に起こったのであった。

とはいえ，そんな和やかな雰囲気の中で，その大きな笑い声が消え，役員全員が我に返ったそのあとに，その案は見事にお蔵入りとなった。けれどもなぜか，その後の役員会は，それまで以上にうまく運営が進むようになったのである。